
	<h1>学校だより</h1> 	<p>平成28年 4月28日 横浜市立大曽根小学校</p> <p>TEL 542-1785 FAX 541-0949</p>
---	---	--

いざというときのために

がっこうちょう みつはし じゅんこ
学校長 三橋 淳子

青空が広がり、初夏を思わせるような季節になってまいりました。桜前線がようやく北海道まで届いたというニュースを耳にしましたが、あらためて日本の広さを感じます。

この度の熊本、大分を中心とする地震につきましては、未だ終息の話が聞こえず、被災された方々のご苦労、ご心痛を考えますと、言葉もありません。心からお見舞い申し上げます。

この度の地震を受けて考えたことは、東日本大震災の際と同様に「今、自分にできることは何か」ということです。避難所やご自分の車で避難生活を送られている多くの方々が、周囲の方に気を遣いながら、見通しのもてない、最低限必要なものが手に入らない、制約の多い環境の中で過ごされている。小さなお子さんや障害をもつ方のご家族が避難所に入ることをためらい、支援物資を受け取る機会もままならないケースもあると聞きました。また、小学生が自分たちで考えて、工夫して、小さな子ども達が遊べるような場面を作ったことや、中学生や高校生が「学校が始まるまでは」とボランティアをかってでていることも伝えられています。子どもたちの頑張りにも励まされると同時に、自分がその場にいたらどのように考え、行動できるだろうかと考えさせられます。

日頃から、生活の場面に応じて「今、大きな地震が起きたら」と考えているかいけないかでは、いざという場面での対応が大きく変わってきます。学校でも地震、火事等を想定して訓練を重ねていますが、では登校中だったら、遊びに行く途中だったら、家で一人で留守番しているときだったら…と考えておくことが大切だと思います。また、これは防災に関連する内容として樽町中学校区青少年健全育成委員会の役員会で話題に上がったことですが、ぜひ各ご家庭で水や食料の備蓄をとのお話がありました。今回の熊本の地震では、備蓄はあっても倒壊の危険があって取り出せないということも起きているとのこと。「家庭における防災」について、ご家庭でお子様と一緒に考える機会をもっていただければと思います。

東日本大震災に関連して「釜石の奇跡」という言葉を耳にされたことがある方も多いと思います。震災当時、釜石市立釜石東中学校に勤務されていた平野校長先生から、そのときの様子を伺ったことがあります。お話の中で、震災から学んだこととして次の4点を挙げられていました。

- 【命の大切さ】必ず多くの方が悲しむ。自分の命は自分で守る。
- 【防災教育（訓練）の大切さ】元（基本）がしっかりしていれば、臨機応変な対応が可能。
- 【何事にも真剣に取り組む姿勢】日頃の生活態度が、行動に反映する。
- 【地域や人とのつながりの重要性】いざというときに互いに支え合うことができる。

災害はいつ起きるか分かりません。子ども達を守るために、日頃から、そして発災時、学校として取り組むことは枚挙にいとまがありません。日々の教育活動を通して防災について指導を重ねていくとともに、防災計画をもとに危機管理意識をもって必要な訓練、研修、対応を進めて参ります。ご家庭、地域の皆様ともご相談させていただくことが出てくると思います。よろしく願いいたします。

先日の授業参観、懇談会に続き、4月の最終週から5月2日にかけて、各担任が家庭訪問をさせていただいています。ご多用の中、ご対応いただきまして、ありがとうございます。この機会に限らず、ご相談等ありましたら、どうぞご遠慮なく、担任あるいは学校にご連絡ください。

今後とも、本校の教育活動に、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。